

平成31年 1月28日

公益財団法人
産業構造調査研究支援機構 御中

住 所 240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-4
機関名 横浜国立大学国際社会科学研究院
代表者 研究院長・泉 宏之 印



産業構造調査研究事業報告書

産業構造調査研究事業の実施について、下記の通り報告します。

記

- 1、研究課題 ロシア経済の太平洋シフトと日本産業の展望：空間経済構造分析
- 2、研究代表者 横浜国立大学国際社会科学研究院・中村 靖
- 3、研究実施の概要 別紙のとおり

研究事業に関する実施概要

平成 30 年 4 - 8 月

空間経済構造分析の基礎データとなる『ロシア地域統計集』(2001-2017 各年版)および『主要都市統計集』(200-2016 各年版)掲載データを、地理情報システム GIS ソフトウェア(本研究では QGIS を利用)で利用可能なリレーショナル・データベースに変換作業を中心におこなった。各地域への統一地域コードの付与、各統計指標への統一指標コードの付与、多様な表形式で掲載されている表を地域コードを主キーとするデータベース表に統一する機械的作業であるため、各種マクロ・ツールを作成し自動化を図った。しかし、オリジナル・データの不備、不統一が大きく、手作業で対応する部分が多く、時間と労力がかかった。

同時に、空間経済構造分析の基礎となるロシアのデジタル地図を作製した。基本的にはカルフォルニア大学デービス校 The Center for Spatial Sciences が提供している GADM 行政区分デジタル地図を使ったが、クリミヤ共和国の接合、主要都市追加に加え、GADM のオリジナル・マップの行政境界に複数の誤りがあったため、その対処に多くの時間をとられた。デジタル地図は、出来上がってしまえば利用は容易だが、途方もない数の点からなる行政境界の修正作業はまさに職人技と力仕事の世界であるとの感を深めた。

平成 30 年 8 月 - 1 2 月

8 月 20 日から、モスクワの高等経済大学(HSE)の International Center for the Study of Institutions and Development (ICSID)客員研究員として滞在し、ロシア地域経済について多くのロシア人研究者と意見交換、研究ネットワークの構築をおこなった。ここで企業レベルのデータベース RuFIG の提供も受けたが、作成した GIS データとの接続は今後の課題である。

この間、9 月 5 - 10 日は、ワルシャワ経済大学で開催された欧州比較経済学会に出席した。ソ連時代の地域経済の実物経済と金融経済に関する研究代表者・中村の報告を含む 2 つのセッションを組織して討議をおこなった。

9 月 17 - 21 日は、チェリヤビンスク州、チェリヤビンスク市の地域経済調査をおこなった。南ウラル国立大学からの招聘により学生向け講演をするとともに、前チェリヤビンスク州経済大臣等へのインタビュー工業地帯訪問、チェリヤビンスク・トラクター工場訪問(大戦中の基幹戦車工場)をおこなった。ただし、チェリヤビンスク州経済省についてはインタビュー予定の副大臣が訪問直前に汚職で逮捕される事態となり、最終的にキャンセルとなった。この影響で、スベルドロフスク州・エカテリンブルク市等への訪問調査が時間的に困難となった。

10 月 15 - 17 日は、ロシア経済の現状と展望について、民間金融機関、政府系シンクタンク、ロシア中央銀行のエコノミスト等、ロシア・マスコミ関係者、日本のロシア東欧貿易会ロシア事務所等の非学術関係者以外に集中的にインタビューをおこなった。

10 月 20 - 27 日はドイツ・ハレ経済研究所に客員研究員として滞在し、西欧サイドからみたロシア経済について意見交換を集中的におこなった。

11 月 17 - 25 日はフィンランド銀行移行経済研究所に客員研究員として滞在し、ロシア経済の現状について意見交換するとともに、本研究の成果の一部を *Is Russia Moving to the East* と題するセミナー報告をおこなった。

平成 30 年 12 月 - 平成 31 年 1 月

空間経済構造分析を実施し、ロシア滞在中の知見を加えて、本研究の研究報告書を作成した。

経費の使用内訳

費 目	当 初 予 定 額	実 支 出 額
研究助成希望額の 内訳（詳細に）		
1. ロシア都市訪 問調査旅費調査 ロシア滞在中に シベリア鉄道沿線 の工業都市の州、 市政府へのインタ ビュー調査をおこ なう。別途経費に よりロシア滞在中 のため国内旅費の み。	40 万円	699,675 円
2. データ整理・入 力アルバイト人件 費 ロシア地域統計 データの空間統計 データベース化の ための人件費。	6 4 万 4 千 円	400,645 円
総額 1,044,000 円	申請総額 1,044,000 円 (支給総額) 1,000,000 円	1,100,320 円

研究成果に関する実施概要

本研究の直接の成果は次のとおりである。

Nakamura, Y., *Deadly Weights: Accumulation of Domestic Debts in the Soviet Era*, presented at the 2018 conference of European Association for Comparative Economic Studies at Warsaw School of Economics on 8 September 2018.

Nakamura, Y., *Economic Development in Japan and Russia: 1854 to present, and future*, invited lecture at South Ural State University on 20 September 2018.

Nakamura, Y., *Is Russia moving to the East? A simple spatial analysis*, presented at the BOFIT seminar series, the Bank of Finland Institute for Transition Economies, on 19 November 2018.

Nakamura, Y., *Has the Spatial Structure of the Russian Economy Changed?* presented at the International Center for the Study of Institutions and Development, National Research University - Higher School of Economics on 2 December 2018.

中村靖『ロシア経済の太平洋シフトと日本産業の展望:空間経済構造分析』平成 30 年度産業構造調査研究事業研究報告書(別添)。